

8. 取組に関する情報の収集と発信

1) 大学教育改革プログラム合同フォーラムにおける情報の収集と発信

平成18年11月12日（日）・13日（月）、パシフィコ横浜にて開催された平成18年度大学教育改革プログラム合同フォーラムに、本学教員2名と事務局職員2名が参加し、本学の現代GPの取り組みに関する情報発信と情報収集を行った。このフォーラムには、2日間で延べ5,000人の参加があり大盛況であった。1日目は、元東大総長の有馬朗人氏の基調講演「輝く大学を作る絶好の機会」や平成18年度選定の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）および平成17年度選定の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）を紹介するシンポジウム等が開催された。2日目の午前11時～午後4時半の間には平成18年度に採択された取り組みのポスターセッションが行われ、そこで本学の現代GPの取り組みに関する情報発信を行った。会場にはポスター展示用のパネル（縦120cm×横180cm）が準備され、そのパネルスペースに本学の取り組みの広報ポスター（資料Ⅱ-8-1）を掲げ、広報チラシ（資料Ⅱ-8-2）をもとに随時プレゼンテーションを行った。

本学に与えられた場所は、偶然にも会場入口となるエスカレーターを上がってすぐの、参加者の誰もが最初に目にする申し分のないところであった。このような地の利もあり、セッション開始前から終了時刻まで、多数の他大学の教職員などに、本学の取り組みを紹介することができた。質問等も多く、特に同様の地域貢献型の取り組みを行っている、あるいは今後行おうとしている大学の関係者や看護系大学・学部（和歌山県立医科大学、大阪大学、東北福祉大学、新見公立短期大学、島根大学、県立広島大学、龍谷大学、倉敷芸術科学大学等）の関係者から、本学の取り組みの内容について熱心な質問が寄せられ、貴重な情報交換の場になった。

平成19年度および平成20年度の大学教育改革プログラム合同フォーラムにも、本学教員が1名参加して情報の収集に努め、他大学の関係者と様々な情報交換や意見交換を行った。

資料Ⅱ-8-1 本学現代GPの取り組みの広報ポスター



現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

地域住民と共に学び共に創る健康生活

住民による教育支援と学生による地域支援の融合とeヘルスの活用

取り組みの概要

この取り組みは、神戸市看護大学の新たなカリキュラムで構築した「健康生活支援学」で目指す、地域や家族を基盤とした人々の健康生活を支援する看護実践能力の育成と、住民主体の健康づくり、まちづくりを行政・住民と共に図ろうとするものである。学内にGP委員会を設けて定期的に各部門の活動を相互に補完し、全学を上げて取り組んでいる。

具体的には

- ①看護教育への住民ボランティアを広く地域で募り、協力を得て看護教育を創っていく。
- ②自治体との協働による「ヘルスアップ作戦」を展開する。「健康を楽しむまちづくり」を目指して、地域の人材や施設のネットワークの中で、ヘルスアップ推進員を育成し、健康づくりとまちづくりを進める。
- ③看護協会との提携による「まちの保健室」に住民と学生が参加する。
- ④学生が「命の感動体験」「命の出前講座」「プレババ&プレママセミナー」「ピアカウンセリング」に参加することにより、子育て世代の人々や思春期、妊娠期の人々から学ぶ。
- ⑤①～④の取組を補完するためのeヘルスシステムの協働構築を図る。これらにより、重層的な地域活性化効果が期待される。

神戸市看護大学GP委員会

1 健康生活支援学等学生教育部門

学生が「人々の健康生活を支援する看護実践能力」を開発し習得することができるように、健康生活支援学の学科及び関連科目の学習内容・方法の調整・評価を行う。また、必要に応じて、関連する科目担当教員との調整を行う(災害関連科目を含む)。教育支援ボランティア・訪問受け入れボランティアの活動の場を設ける。



2 ヘルスアップ作戦部門



神戸市西区役所と連携し、地域住民から選出されたヘルスアップ推進員の学習及び活動を支援する。具体的には、住民向け健康増進活動の内容・方法・広報・運営等に関する協議を進め、推進員の活動が地域で定着するのを助ける。また、参加する学生ボランティアにとって有意義な学習体験を提供する。

3 まちの保健室部門

年間計画の元に、地域住民組織を通じた広報活動、月1回の保健室開催の運営等を担当する。また、参加する学生ボランティアにとって有意義な学習体験を提供する。地域の開業医・訪問看護師等の参加協力を得る。



また、招聘講師によるプログラムの計画も実施する。

4 次世代育成部門

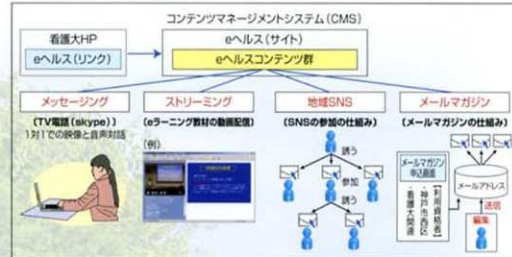
自治体、学校や地区民生児童委員と協働して、小学校5・6年生が乳幼児との触れあいを体験する「命の感動体験」や「命の出前講座」「プレババ&プレママセミナー」「ピアカウンセリング」を実施し、学生も参加し学びを深める。



5 eヘルス部門

eヘルスシステムを構築し、その運営を担当する。地域住民、学生ボランティアの参加を得て、日常生活に密着した情報の提供を進める。また、コンテンツ等についての担当者への依頼や業者との調整を行う。

■eヘルスシステム概要図



6 地域住民の健康調査部門

地域住民の健康調査の計画・実施・結果集計等を担当する。正課としての学生参加を計画するほか、調査結果に基づき、住民の健康問題を明確にし、健康生活支援プログラム等についての提言を行う。

7 地域住民ボランティア登録・管理部門

教育支援ボランティア・訪問受け入れボランティアについての、広報・住民組織を通じての依頼・募集、登録管理(個人情報保護)を担当する。



8 学生ボランティア組織化・調整部門

GP関連の全ての事業活動に参加する学生ボランティアの組織化・調整(説明・広報・募集・配置等)についての調整を担当する。



9 評価部門

全ての活動について、その過程、成果、予算執行の評価を行う。



10 事務局

学外の機関との連絡などの事務を担当する。



神戸市看護大学
COLLEGE OF NURSING
<http://www.kobe-ccn.ac.jp>

[お問い合わせ先]

〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

神戸市看護大学 GP委員会 TEL. 078-794-8080

2) 学術会議等における取組成果に関する発表

以下のように、本学現代 GP の取り組みの成果に関して、積極的に学術会議等で発表を行い活発な意見交換を行った。また、本学取り組みに関連する様々な学術会議等にも積極的に参加し、情報の収集と意見交換を行った。

(1) 学生教育部門

- ①第 17 回日本看護学教育学会学術集会, 2007. 8. 福岡: 岩本里織, 小坂素子, 小倉弥生, 稲垣絹代: 「住民教育ボランティアを導入した健康教育の効果(第 1 報) 学生の学習への影響」
- ②第 17 回日本看護学教育学会学術集会, 2007. 8. 福岡: 波田弥生, 岩本里織, 小坂素子, 稲垣絹代: 「住民ボランティアを導入した健康教育の効果(第 2 報) 住民ボランティアの健康意識への影響」
- ③第 17 回日本看護学教育学会学術集会, 2007. 8. 福岡: 江川幸二, グレグ美鈴, 沼本教子, 二宮啓子, 登喜和江, 岩本里織, 吉田こずえ: 「地域住民と共に学び共に創る看護学教育の実践と評価 現代 GP における取り組み」
- ④第 18 回日本看護学教育学会学術集会, 2008. 8. 筑波: 二宮啓子, 宮内環, 丸山浩枝: 「乳幼児と母親を教育ボランティアとして導入した授業の効果ー学生への影響と教育ボランティアへの影響」
- ⑤第 34 回日本看護研究学会学術集会, 2008. 8. 神戸: 森下晶代, 登喜和江: 「看護実践能力育成に向けての技術演習の取り組みー地域住民ボランティアの模擬患者による技術演習の効果」
- ⑥第 18 回日本看護学教育学会学術集会, 2008. 8. 筑波: 小倉弥生, 岩本里織, 稲垣絹代: 「学生の健康教育が教育ボランティアへ与えた効果」

(2) 次世代育成部門

- ①第 22 回日本助産学会学術集会, 2008. 3. 神戸: 吉田香奈子, 高田昌代, 藤井ひろみ, 子安恵子, 岡永真由美, 安積陽子: 「助産学専攻科学生の『パパママ応援隊実習』の実践報告」
- ②第 23 回日本助産学会学術集会, 2009. 3. 東京: 高田昌代, 藤井ひろみ, 子安恵子, 谷川裕子, 嶋澤恭子, 早瀬麻子, 是澤あずさ: 「現代 GP 事業 次世代育成支援実践報告～健康支援力を高める住民・助産学学生・学校・自治体の相互交流～」
- ③第 23 回日本助産学会学術集会, 2009. 3. 東京: 藤井ひろみ, 高田昌代, 子安恵子, 谷川裕子, 嶋澤恭子, 早瀬麻子, 是澤あずさ: 「現代 GP 事業次世代育成支援実践報告～地域における住民と協同して行う助産学教育～」

(3) まちの保健室部門

第 67 回日本公衆衛生学会, 2008. 11. 福岡: 池田清子, 稲垣絹代, 高山成子, 笠松隆洋(神戸市看護大学), 柳本有二(神戸常盤大学): 「5 回シリーズの体験中心の健康教室における参加者の意識と行動の変化」